



林業福島

No. **605**



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

1

2015

かんしゅう ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 馬 搬



復興の新たなステージへ

福島県知事
内堀 雅 雄

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

県政を担うこととなって一月半が経過いたしました。この間、「現場主義」を基本姿勢に据え、積極的に現場に足を運んでまいりました。今後とも、市町村や地域の声をしっかりと受け止め、県政に反映してまいります。

震災から間もなく四年を迎えます。今なお十二万人もの県民の皆さんが避難生活を続け、原発事故の完全収束に向けた課題も多く、厳しい状況が続いております。

その一方、インフラの復旧・整備が進み、福島県の未来を支える研究・開発拠点の開所や着工、企業の経済活動や観光地のにぎわいの回復など、各地で復興の光が少しずつ見え始めてきました。

今年、復興の序章から新たなステージへと進めていく年であり、復興が着実に実感できるよう、スピード感を持って取り組んでまいります。

中でも、避難地域の再生は最優先の課題であります。環境回復や生活再建・安定への取り組みはもちろん、農林水産業や商工業などの再生をしっかりと進めるとともに、廃炉に集結する世界レベルの先端技術を種に革新的な新産業を生み出す「イノベーション・コースト構想」の具体化にも取り組んでまいります。

また、国、市町村と一体となって避難地域の将来像の検討を進め、復興施策全体の基盤となる「復興計画」の見直しにも着手いたします。

さらに、福島を担う子どもたちのための政策にも力を入れてまいります。子どもの持つ潜在力を大きく開花させられるよう、教育環境を充実させるとともに、地域全体で子どもを育む社会づくりを進め、日本一安心して子育てのできる県づくりを目指してまいります。

このほかにも、風評・風化への対策、避難者支援、社会生活基盤の整備、地方創生への対応など課題は山積しておりますが、こうしたさまざまな課題に進取の気概を持って果敢に取り組んでまいりたいと考えております。

「住んで良かった・来て良かったと思える豊かな『ふくしま』を築くため、「ふくしまから、チャレンジ、はじめよう。」の下、全力で県政を運営してまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさついたします。

《も く じ》

とびら	森と生きる……………	7
復興の新たなステージへ	普及指導員通信……………	8
福島県知事 内堀 雅 雄……………	海岸防災林シンポジウムを開催……………	9
震災復興5年目を迎えるに当たって……………	◆ 森林管理署メモ……………	10
新春特集	苗協メモ……………	11
林業女子が新春の抱負を語る……………	木材市況・派遣職員メッセージ……………	12
林業研究センターだより……………	はなしのひろば……………	13

震災復興五年目を迎えるに当たって

農林水産部次長(森林林業担当) 水戸 典明

東

日本大震災から四度目の春を迎えました。平成二七年度は、復旧復興に取り組んで五年目に入ります。この間、県民の皆様とともに、応援してくださいとお願いし、御支援を受けながら、一丸となって復旧・復興に取り組んでまいりました。

震

震災前の平成二二年に一二五億円だった林業生産額は、統計が出ている平成二四年で約七四億円に、また、民有林の森林整備面積は、平成二五年度で平成二二年度比四六割の五、六二六割にとどまっています。

一方、素材生産量は平成二四年から回復し、平成二五年には震災前とほぼ同水準の七四万二千立方メートルとなりました。県内外ともに新設住宅着工戸数が増加するとともに、木質バイオマス利用施設の稼働等による需要増が寄与しているものとみられます。

三市町で出荷制限を受けていた施設

設栽培の原木しいたけは、生産工程を適切に管理しホダ木ときのこの安全性が確認された生産者四名の出荷が再開されました。

治山施設・林地の被害は、災害査定等を受けた二七箇所中二〇箇所で、林地施設災害は、新潟・福島豪雨災害と合わせ三一七箇所中二九五箇所で、復旧工事が完了しました。

今

後、森林の再生や林業の復興を着実に実現していくには、放射性物質の影響を正しく知る必要があります。

県は、森林内の放射性物質の状況を把握し、放射性物質対策を効果的に進めるため、平成二三年度から継続してモニタリング調査を行っています。これまでに、森林内では、空間線量率が平成二三年から平成二五年の間に約五〇割減少したこと、放射性物質は全体の四分の三が土壌に分布していること、溪流などへの放射性物質の流出量は〇・三割未満で

あること、また、木材内部の放射性セシウム濃度は比較的低濃度で木材利用への影響がないことなどが明らかになっていきます。

また実証事業でチップの林内被覆により空間線量率の低下に効果があることも分かっており、ふくしま森林再生事業では、これらの知見を活かしながら、人工林の間伐や広葉樹林の更新などの森林整備と、放射性物質対策とを一体的に進めています。

地

震災に伴う津波で海岸保安林の約六〇割に相当する一五五割が流出しました。この復旧を防潮堤、道路等の整備と避難態勢の確保などを組み合わせた多重防御の観点で進めており、津波の減衰効果がみられる二〇〇程度に林帯幅を拡大するなど保安林の機能強化を図っています。このため、海岸防災林造成事業の計画面積は六〇〇割を超え、本県の治山事業としては史上初の保安林買い入れを含め事業用地を確保しながら整備を進めています。

森

づくり活動も原発事故後厳しい状況にあります。昨年八月に平成三〇年全国植樹祭の本県開催が内定しました。全国植樹祭を森林再生への取組の目標にするとともに、復興

に取り組む福島姿勢と、国内外から受けた支援に対する感謝の気持ちを広く発信するシンボル事業として県民が一丸となって取り組めるよう、準備を進めています。

震災からの復旧・復興五年目に入る平成二七年が、意義のある一年となるよう取り組んでまいります。



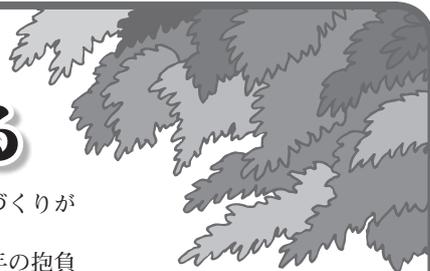
南相馬市の海岸防災林 (南相馬市鹿島区北海老地区)

新春特集

林業女子が新年の抱負を語る

本県では、県民一人一人が主役となってふくしまの復興と未来を見据えた森林づくりが進められています。

新春に当たり、森林整備や緑化活動に頑張っている林業女子の皆さんから、今年の抱負を語っていただきました。（順不同）



次世代の主役となる青少年の育成

県中農林事務所 森林林業部林業課

佐藤 春菜

平成二五年度の採用以来、約二年間緑化関係業務を担当しています。まだまだ手探りの状態が続いていますが、二つの課題を新年の抱負に考えました。

まず一つ目は緑化活動の具体的な提案です。これまで二回、学校関係緑化コンクール現地調査に行きましたが、どの学校も積極的に花壇整備に取り組んでおり、とても素晴らしい景観となっていました。しかし、樹木を取り入れた活動となると難しいようで、児童・生徒が参加できる活動が思いつかないという声も多くありました。実際に整備活動に取り組む以外にも、樹名板作成のように学習の一環としても取り組める事例を具体的に提案できるように、積極的に情報提供を行いたい考えです。

二つ目は緑の少年団の活動支援です。昨年の大きな話題に平成三〇年の第六九回全国植樹祭の福島県開催内定があります。開催に向けて子どもたちの活動も注目されつつある中、現在の県中管内の緑の少年団は十三団あ

りますが、休止中や統合により解散となる少年団もあり、寂しい状態となっています。このため、全国植樹祭を機会に少年団活動が活発になるように、各学校へ積極的な働きかけをしていきたいと考えています。また、市町村や地方緑化推進委員会と少年団の関係が薄れてしまったところもあるので、情報共有しながら、まずは県中管内十二市町村で一団の結成を目指したい考えです。

新年を迎え、今年はこの二つの課題解決を目標に取り組みたいと思います。



地球環境問題にも貢献する森林づくり

西会津町森林組合

上田 亜紀

「あの人たち、環境破壊している。」「木がかわいそう……。」

造園会社に就職し、公園の樹木の剪定作業をしていた時のことでした。通りすがりの子供たちが、作業中の私を見てこう言ったのです。

幼い頃から季節ごとに色づく山々が大好きで、環境問題、とりわけ、森林の有する機能について学び貢献したいと、造園林学を専攻していた私にとって、木を切る＝環境破壊と受け取られてしまったことは、十数年経った今でも忘れることができない悲しい出来事でした。組合入組後、森林所有者と接する中で、森林の取巻く様々な問題により森林所有者の関心が薄れてしまっていると感じていました。

当組合では、所有者の大切な財産である森林を、補助金を活用し集約化を進め、コストの削減と利益還元の実現に努めています。西会津町では、木質エネルギー地産地消計画という新たな計画が動き始めました。実現すれば、地域の関心が高まる

だけでなく、未利用材などの利用が期待されます。手をつけず守るべき森林もあります。活用することで所有者の利益につながるだけでなく、地球規模の環境問題の観点からも貢献できることを、森林所有者だけでなく、あの日の子供たちのように知らずにいる人達に、もっと広く知ってもらいたい、そのためにはもっともっと勉強して、組合職員の一員として微力ながら貢献していきたいと思っています。



目指すは日本一のキコリ

株式会社アメリカ屋

大須賀 奈々

「林業やってみたいか？」

先輩がたまたま連絡してくれた一本の電話が私の運命を大きく変えた。

もともと体を動かすことが好きだった私は「やってみたい！」と即座に答えた。林業がどういうものか全く知らなかったが、木を伐る仕事はとても格好いいと思っていたからだ。すぐに(株)アメリカ屋の鈴木社長面接を受け現場を案内していただいた。できるかできないかはわからない。でも、とにかくやってみようと思った。それが昨年(平成二六年)三月のことだ。

現場は、お嬢様のやるママゴトではない。お荷物にだけ

はならないように心がけてはきたが、時にはぶっ飛ばしたくなるようなこともあったと思う。でも、林業の現場で働く人たちはみな優しい。そういった山男たちの優しさに囲まれて、私は何よりも木を



伐ることの楽しさを知った十ヶ月だった。

現場に行くと、「なんだ、女が来たのか」と言われることがある。そんな時が一番悔しい。まだ自分が思ったように木を倒せないし、重機の扱いだって初心者だ。でも、現場では男も女も関係ない。まだまだ未熟な私だが、知識と経験を積み、資格も取り、一日でも早く伐採現場の最前線で働けるようになりたい。今はやりの「林業女子」とは言わせない。夢は大きく、目指すは日本一のキコリだ。今年はそのための飛躍の年にしたいと思っている。

異世代間交流で広げる緑化活動

県南、木もれび倶楽部

会長 山本光子

「県南、木もれび倶楽部」は『木も

れびのさす里山づくり』等の森林活動を通して、県南地域のお子様からシニアまでの異世代間交流による社会教育や地域社会の活性化を目指しています。育樹祭・植樹祭へ継続的に参加し、会員及び地域住民の皆さんたちと幅広い世代で自然とのふれあいから元気のある街づくりを支援する活動を行ってまいりましたが、震災による影響で、活動フィールドが様変わりしてしまい『木もれびのさす里山づくり運動』が継続できなくなりました。しかし、活動フィールドは里山だけではないと思ひ直し、地域に根ざした活動として『手作り

で花いっぱい活動』をJR新白河駅、白河駅の両駅長をはじめとした職員の方や、白河市・西郷村・白河観光物産協会の皆さん等の地域と連携したくさんの方々の協力を得ながら、「東北の玄関口新白河駅前」「ステンドグラスのある赤瓦の屋根の大正ロマン漂う駅舎の白河駅」「奥州三古関の一つ白河の関に隣接する白河



関の森公園」等で福島県産の間伐材を利用した木工プランターで季節の花々を植える活動を幅広く実施して参りました。お陰さまで、ひとつひとつの小さな活動が実を結び、大きな力と変わりつつあります。

新年度も世代の違うみんなで、県南エリア全域をフィールドに活動を続け、それが連鎖し大きな運動へ変貌できるような活動を続けてまいりたいと思います。

林業研究センターだより
**福島県林業研究センターの
 試験林と指導林**



多田野試験林

福島県林業研究センター

主任研究員 **渡部 秀行**

I はじめに

福島県林業研究センターは、林業試験研究のために昭和四四年四月郡山市安積町成田地区内に設置されました。それ以前の試験研究は東白川郡塙町にあった福島県林業指導所において行っていました（昭和二六年四月から昭和四四年三月まで）。林業指導所は開所当初から県内各地に試験林と指導林を設置し、各種試験を実施してまいりますのでその概要を紹介します。

II 試験林、指導林の概要

現在、林業研究センターは本所試験林と多田野試験林、林業指導所時代から引き継いだ塙試験林と川内試験林（川内村と試験林設定契約）の四箇所を所有しています。試験林は



林業研究センター試験林

各種造林試験やきのこ栽培用のほだ場利用など各種試験研究を総合的に実施しています。指導林は地域の模範林の造成を目的とし、地域森林施業技術上の課題を究明し、県内各地の土地所有者と分収契約を締結して各種試験を実施してきました。現在

は指導林における試験研究はほぼ終了し、展示林として維持管理をしています。

設定当初は早期の収穫をめざした国内精英樹や外国樹種の造林試験等を実施してきましたが、昭和五年のクリスマス豪雪後は気象災の復旧や災害に強い造林技術としての複層林試験などを行ってきました。また、東京電力福島第一原子力発電所の事故後は、関係研究機関と連携をして放射性物質関連の試験地として利用してきました。試験研究の詳細は林業研究センターのホームページをご覧ください。以下、林業研究センターが管理している試験林・指導林の概要です（表1）。

1 試験林

① 林業研究センター試験林

林業研究センター本所の試験林は実験施設や採種園・採種園・苗畑と併せて管理し、各種試験のフィールドとして活用しています。ここではアカマツとスギやヒノキ、アスナロの二段林生長量調査、広葉樹（ブナ、イヌエンジュ、ホウノキ、ケヤキ、ミズキ）の生長量調査など各種造林試験を行っています。

② 多田野試験林

昭和五二年に、林業研究センターの一部が国道四号バイパス用地となったため、その代替地として郡山市より譲渡された林地です。譲渡時の林況はアカマツ、スギの一般造林地と広葉樹林が混在していました。

表1 試験林・指導林の概要

区分	試験林・指導林名	所在地	面積	所有者	備考
試験林	本所	郡山市安積町成田	23.9ha	福島県	県有地
	多田野	郡山市逢瀬町多田野	9.0	〃	〃
	塙	塙町大字台宿	0.4	〃	〃
	川内	川内村大字下川内	122.5	川内村	分収林契約
指導林	稲沢	塙町大字台宿	4.4	個人	〃
	一本木	塙町大字東河内	2.2	〃	〃
	権現	塙町大字東河内	20.8	〃	〃
	柳津	柳津町大字細入	7.2	〃	〃
	真名畑下郷	塙町大字真名畑	4.8	〃	契約解除
		下郷町大字大内	2.0	〃	〃

ここではスギとヒノキの植栽方法別、カラマツ品種系統別の生長量調査、きのこ原木としての萌芽更新による生長量調査等を実施しています。現在は東京電力福島第一原子力発電所事故で放射性物質関連試験の試験林として独立行政法人森林総合研究所との共同研究に利用しています。

③ 塙試験林

林業指導所時代の昭和三三年に塙町から寄付を受け設定した試験林です。昭和三五年～三六年に外国品種と国産品種のマツ類の品種比較試験



川内試験林

阿武隈高地中北部に位置し、浜通り地方における林業全般に関する試験研究及び林業経営の展示を目的に、昭和三四年川内村と分収契約を締結し、試験林として設定しました。当初は試験林に職員駐在の現場事務所を設置し、計画的に試験林の整備を



埴試験林

を行い、その後見本展示林として管理しています。

④ 川内試験林



稲沢指導林

を進めてきました。昭和四六年度に植栽事業は終了し、その後試験のため管理をしてきました。ここでは、スギ植栽密度やスギ品種系統別による生長量調査、スギ間伐方法比較調査、クリ品種別収穫量比較調査、寒冷地におけるヒノキや外国樹種(テイヤ、カンバ等)による造林の可能性等を検討しました。この試験林で得られた成果はその都度発表会で発表しました。なお、この試験林は昭和四六年八月台風の豪雨により山腹崩壊五〇箇所、面積二・二六畝の甚大な被害が発生し、翌年度より災害復旧工事を行い、現在全面積の六四割が土砂流出防備保安林に指定されています。

2 指導林

① 稲沢指導林

昭和二八年にスギを植栽し、林業指導所の試験として計画的な保育を行い、間伐試験を実施し、六三年間



柳津指導林

の長伐期施業として有効な成果を得ることができました。

② 一本木指導林

昭和三〇年にスギを植栽し、林地肥培試験を行いました。昭和五三年の豪雪により冠雪害を受け被害木の整理を行い、間伐等を実施し、有効な成果を得ることができました。

③ 権現指導林

面積は二〇・八畝と広く、作業員を雇用して保育管理を行い、耐寒性スギの植栽試験、カラマツの植栽方法別試験、スギ施肥試験等の試験を実施し、多くの成果を得ることができました。

④ 柳津指導林

会津地方の試験林としてスギと一部に外国マツを造林しました。積雪地帯における省力造林試験ということで、省力化のため雪起しをしない試験を行いました。成林不可能な試験区も見られました。

⑤ 真名畑指導林

昭和二八年スギ、ヒノキを植栽し、林地肥培試験区を設け計画的な施業を行いました。さらに、昭和五四年に間伐の方法別に試験区を設定し保育間伐試験を実施し、有効な試験結果があり、その後の試験の参考にされました。

⑥ 下郷指導林

昭和三〇〜五三年にスギ造林試験、雪害防止試験として帯状皆伐を行い、広葉樹の保残帯を設置した試験をしました。その後の調査では、過去の雪害と雑灌木の侵入により成長が著しく阻害されてしまい、試験を中止しました。

以上、指導林においては造林育林技術関係の試験研究を実施して、当初の試験目的を達成しましたので、真名畑指導林と下郷指導林は契約解除をし、そのほかの指導林も順次契約解除をしていく予定になっています。

III おわりに

これまで昭和二六年の林業指導所の時代から福島県内における林業関係の研究を試験林と指導林を使用して試験を実施し、研究成果をまとめてきました。試験成果は「林業指導所研究報告」、「林業試験場報告」、「林業研究センター研究報告」、「林業試験場業務報告」、「林業研究センター業務報告」として発行しています。

今後とも林業研究センターでは、試験林を使用した森林林業関係の試験研究を推進し、併せて放射能関連の試験も実施していきます。

森と生きる

山暮らしの可能性を探って

南会津町指導林家 月田 禮次郎

国道沿いの自宅から二・五顷、標高差で二〇〇ほど上がった山中の台地に私の農園が広がっています。五〇年前父親と夢をかけて始まりました。

昭和三〇年代から始まった植林事業用の苗木をそこで育て、四〇年代までで三〇鈴の植林をしました。植林は投資だけで、生活費を作らなければならず、高原野菜やコンニャク、緑化木等も栽培しましたが生活は大変でした。昭和三四年に植林地の尾根筋から父が掘ってきて農園に植えた乙女ゆり(ヒメサユリ)は、栽培が不可能と言われていたのにも関わらず、開墾地のためか毎年花を咲かせました。これは何とかなるかもしれないと思うようになり、父が主体になって試行錯誤で手入れが始まり、いろいろな先生を訪ね話を聞き、指導を受け少しずつ面積が増えてきました。不安はありませんでしたが、昭和五十一年に農園で作付けしていた野菜などの作物を全部やめてユリに集中することで手入れが行き渡り

作付けも次第に増え、五八年には三〇〇に種をまき、このペースで作付けを増やしていきました。六一年にはそれまでの球根と鉢植えだけの出荷から切り花の出荷も始めました。切り花の乙女ゆりは知名度が低く苦戦でしたが、次第に知れ渡り、季節の花として認識されるようになりました。数年前には、NHKの大河ドラマに使いたいと切り花を二、〇〇

〇本の注文もありました。初めは何ともきれいなその花と栽培の困難さにひかれ、自分がかかわって何とか花を咲かせてみたい、いつか目の前を一面ピンクにしてみたいという、父と私の共通な純粋な思いで始まったことで、それを生活の糧にするなどという不純な思いは少しもなかったです。五八年に種をまいた三〇〇に花が咲いたときは、一面がピンクの中に父も私も長年の苦節を思い返しながらも当面の夢が叶い、感無量の時間を過ごしました。

ユリについては連作障害とも思

よらぬイノシシの北上による球根の食害で以前ほどの面積ではなくなり、当初一鈴ほどから始まった畑地も林の木をキノコの原木や薪に使いながら跡地を開墾し、今では五鈴を超えるまでになり、そこにはカラーをはじめとする花を作付けし、切り花の生産をしています。秋には農園の周りの林の落ち葉を集め、春にはそれを花畑の畝間にビッシリ敷きこみ畑を肥やし、林の中は連作障害がないのでユリの種をまき、たくさんのお花が咲くようになってきて、これからも楽しみです。

農園の周りの林は、いろいろな環境のところがあ

や樹木、チョウの食草となる草木、山菜、薬草などを植え込み、植林地の作業道づくりで、水気のあるところは必ず池を作り、その止水の環境に集まる水生昆虫や両生類をながめたり、忙し



子供とつくったトトロの石窯です。パン・ピザ・イモ何でも焼けます。

い農園の仕事のなかでここから出来ること、ここから出来ることを探し、いろいろなことを試し、植物を含めた多様な生き物との出会いを楽しみながらやっております。農園の仕事で時間を取られ、山に向ける時間を作れないのがとても気になります。一番末の息子が今農学部三年生で、私は何も言わなかったのですが、森林科学科に籍を置き育林学を学んでおり、卒業したら帰ってくると言っているのです。とても嬉しく楽しみにしているところです。農園は私と父とで五〇年かけて山の中に開いた、次の世代につながりそうな夢の形です。

もり 企業の森林づくり 「海岸防災林の再生へ」

■いわき農林事務所
林業普及指導員 加藤 修

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けたいわき市の海岸林の再生に向けて、株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下、みずほFG）が、いわき市平下大越地内において企業の森林づくりによる植樹活動を行いました。

近年、企業の社会的責任に対する関心の高まりから、森林整備や森林保全などの森林づくりに取り組む企業が多くなっております。福島県ではこのような企業に対し、フィールドの紹介や協定の締結、森林づくりの情報提供など森林づくり活動の実施に向けた支援をしております。



東日本大震災の津波により被災したいわき市平下大越地区の海岸林所有者である下大越共有山林組合は、一日も早い復旧を望んでおり、一方、みずほFGは被災地への社員ボランティア支援を検討しておりました。そこで、福島県が「企業の森林づくり」の枠組みを説明し、両者の同意を得たことから、みずほFGは下大越地区の海岸防災林の再生に取り組む活動を「みずほの森プロジェクト」として位置づけ、森林づくり活動を実施することとなりました。

実施にあたり、平成25年4月24日に福島市において、みずほFG、下大越共有山林組合、いわき市、福島県の4者により、企業の森林づくりの協定が締結されました。協定では、みずほFGが協定締結者と連携しながら、防風や防潮機能の高い森林への育成を目的として、平成26年度から平成30年度まで植栽や下刈り等を行うこととしております。

県内において企業の森林づくりの協定締結は8箇所目ですが、海岸防災林の再生を目的としたものは初めてとなります。

今回の活動を推進するため、普及指導員は、植樹にあたり樹種や方法、本数などについて、みずほFGや地元下大越共有山林組合ほか関係者と検討を重ねました。

平成26年度第1回目の植樹活動には、県内だけでなく宮城や東京のみずほFGのたくさんの希望者の中から抽選で選ばれた約150名のほか、下大越地区住民等も参加しました。参加者は10班に分かれ、各班についた普及指導員や森林組合職員から植樹方法だけでなく、海岸防災林の重要性や安全作業の注意などの説明を受け、植樹作業が行われました。当日は天気にも恵まれ、0.45ヘクタールの箇所に、抵抗性クロマツコンテナ苗が4,500本植樹されました。

みずほFGは、平成27年度以降も海岸防災林の再生に向け、クロマツ苗木の植樹と下刈等を計画しております。今後の活動についても、普及指導員としてみずほFGや地元下大越共有山林組合など関係者と連携しながら支援していきます。



林業普及指導員全国シンポジウムで優秀賞を受賞

12月2日、「林業普及指導事業における森林総合管理士等の活動の取組」をテーマに開催された林業普及指導員全国シンポジウムにおいて、東北・北海道ブロック代表として発表した南会津農林事務所 佐川主査は、優秀賞を受賞しました。

発表テーマは、「地域に根ざした森林経営の作成と森林整備の実施について～フォレスターとしての取り組み～」で、森林所有者に対するスクリーンや図面等を活用した地区説明会の開催等により団地化を推進するとともに、森林組合での間伐材の買取制度の創設等による木材利用を推進することにより、地域に根ざした森林経営計画の作成と実行確保や森林所有者への間伐収益の還元が図られたもので、その推進成果が高く評価されました。



海岸防災林シンポジウムを開催

（公社）福島県森林・林業・緑化協会

東日本大震災で発生した大津波によって本県では、岩手県、宮城県と同じように、海岸防災林が流失するなどの甚大な被害を受けましたが、被災地の復旧工事が進められており、被災跡地には盛土による植栽基盤造成が完了したところも見られるようになりました。

そのため、海岸防災林再生の意義や重要性について地域住民をはじめ多くの方に理解を深めていただくことを目的に、十一月二日、いわき芸術文化交流館アリオス小劇場において海岸防災林シンポジウムを開催しました。

当日は平日でしたが、参加者は地元いわき市をはじめ、南相馬市、郡山市、会津若松市など県内各地域や東京都、埼玉県、茨城県、宮城県の県外から一二〇名の参加があり、海岸防災林に対する関心の高さが伺われました。

シンポジウムは基調講演とパネルディスカッションから成り、はじめに、独立行政法人森林総合研究所東北支所の地域研究監の坂本知己

先生に、「これからの海岸林に求められるもの」の演題で基調講演していただきました。

先生は、海岸防災林が持つ防風、防潮（津波・高潮）、景観・保健休養など多様な機能について説明された後、大津波で被災した海岸防災林の再生と機能維持を図るためには、マツ材線虫病対策と適切な本数調整、さらに砂丘の維持管理を怠らないことが大切であると提唱されました。

また、海岸防災林の防潮効果を高めるためには、幹の太いクロマツから成る林を造ることが大切で、そのための施業の目安として列状間伐を例に、ヘクターール一万本植栽のクロマツ林は、まず林冠高が三層に達した時、三列を残して一列を伐る一伐三残の初回間伐を行い、残存本数を七、五〇〇本にし、その後は林冠高一〇層まで計画的に計七回の伐採を実施して残存本数を一、〇五五本に誘導することが望ましいとのことでした。

パネルディスカッションでは、基調講演の講師を務めた坂本知己先生



パネリストの皆さん、写真左から佐藤忠継氏、高木長吉氏、中澤文彦氏、松崎和敬氏



コーディネーターの坂本先生

をコーディネーターとして、相馬市松川浦の海岸防災林再生事業に苗木の生産で取組む緑地創造研究会海岸防災林担当委員の佐藤忠継氏、地元いわき市の新舞子海岸で「企業の森林植樹事業」としてみずほ銀行と植樹を進める下大越共有山林組合長の高

木長吉氏、本県の国有海岸防災林を管理する磐城森林管理署署長の中澤文彦氏、いわき市を活動拠点として震災前から森づくり活動に携わっているNPO法人いわきの森に親しむ会理事長の松崎和敬氏の四人にパネリストを務めていただきました。

熱心に討論がなされ様々な意見がだされましたが、海岸防災林は成林するまでに長い年月を要します。そのため、海岸防災林再生活動は植樹後の保育を継続していくことが必要です。今後はますます企業、ボランティアなどに加えて地域住民が関わって植樹後の保育活動を展開していくことが望まれます。



シンポジウム会場の参加者

森林管理署メロ

「森林作業道づくりの取り組み」

平成二十二年十二月に「森林・林業再生プラン」が策定され、目指すところである木材受給率五〇割の実現に向けてさまざまな取り組みが進められています。

路網関係では、森林・林業再生プラン推進本部の下に設置された「路網・作業システム検討委員会」の最終とりまとめを踏まえた、森林の整備や木材生産の効率化に必要な「林業専用道作設指針」「森林作業道作設指針」が制定されました。

路網は森林の多面的機能を持続的に発揮していくための基盤であり、持続的な森林経営や林業の収益性向上のためには、丈夫で簡易さらに低コスト化も必要であり、そのためには路網と高性能林業機械の組合せによる低コスト作業システムの推進が重要となっています。

しかしながら、これまでの森林作



業道づくりでは、「指針」どおりの作設方法となっているとは言えない現状であり、事業跡地の路網では路面の洗掘や路肩の決壊等の降雨による被害が見受けられます。また、費用を抑えて経済性を確保するための線形の見極や、構造物の設置の要否やその工法等の的確な判断力と技術力も課題となっています。

このようなことから、福島森林管理署では平成二六年十一月十日に阿武隈川流域林業活性化センターと共催で阿武隈川流域の市町村、森林組合、林業事業体、県農林事務所、森林管理署等の林業事業担当者約六〇名が参加し、関東森林管理局担当職員を講師に迎え「森林作業道作設検討会」を開催しました。

初めに田村森林組合会議室において、森林作業道づくりの講義と放射性物質の拡散防止などを意識した作



田村森林組合会議室での座学講義

設ポイント解説等の座学を行い、午後から田村市常葉国有林の搬出跡地の既設森林作業道において現地検討を行いました。

現地は「黒ぼく土」と呼ばれる地質で、掘削を行うと水が浸み出てくる水分を非常に多く含んだ軟弱な地盤であり、森林作業道の作設には不向きな立地でしたが、講師から転圧の状況や掘削高、構造物の設置等作設時に注

意するポイントの解説や、間伐事業や森林作業道作設による放射性物質拡散の対処について、残材の処理方法や降雨による地表水の分散等下流域への配慮も必要であることを説明し、参加者間での意見交換を行い終了しました。

当署ではこれからも、継続的な検討会の開催や、事業を発注し施工を管理する側と実行する事業者側の両者でさらに勉強会や意見交換を重ねながら、低コストの簡易で丈夫な繰り返し使用に耐えられる道づくりを行うこととしています。



放射性物質拡散対処方法の検討

苗協メモ

平成27年度林業用種苗の動向について



福島県農林種苗農業協同組合

平成二七年度林野庁予算概算要求では、林業の成長産業化・森林吸収対策の推進を重点項目にして、地域材の利用促進による木材需要の創出、花粉発生源となつている立木の伐採・除去及び花粉症対策苗木の供給拡大等に取り組みとされています。これらの施策の推進により伐採面積も増え、苗木の需要も増加することが想定されます。

平成二七年度林業用種苗は、次のとおり展開されます。

1 施策の背景は

- ① 林業の成長産業化を推進する主伐が増加し、伐採後の再造林用苗木需要が増える。
- ② 再造林の苗木は、社会的ニーズに応えた花粉の少ない品種等の苗木が植栽される。

2 その施策の展開は

- ① 花粉の少ない苗木の生産を目的とした採種園の整備が必要です。
- ② 特定母樹やエリートツリーの採種園、採種園の整備が必要です。
- ③ カラマツの種子の増産による安定的な種子確保が必要です。
- ④ 国有林におけるコンテナ苗木の長期需要見込情報の提供が必要です。
- ⑤ 海岸防災林等被災した森林再生用コンテナ苗木生産施設の整備が必要です。

3 福島県農林種苗農業協同組合の事業展開は

- ① 福島県の採種園整備に協力する。
- ② 関係機関と連携してエリートツリー検定林を設置する。
- ③ カラマツの種子確保を行い、苗の安定供給を図る。
- ④ 国有林コンテナ苗木需要見込量からコンテナによる山林種苗生産に着手する。
- ⑤ 海岸林復旧に必要な苗木六七六万本（H二六〇二二〇三三年度合計（H二六年二月現在））を生産する施設の整備を支援する。



会津美里町組合員苗畑

4 平成二七年度山林種苗需要推定本数は

- ① 山林種苗用
 - ・スギ 約九〇万本
 - ・ヒノキ 約二〇万本
 - ・カラマツ 約四万本
- ② 海岸林復旧用
 - ・抵抗性クロマツ 約十八万本
 - ・抵抗性アカマツ 約四万本

総じて、平成二七年度林業用種苗の動向を考察すると、何かが起こるかもしれない、可能性を感じられ



抵抗性コンテナマツ苗

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(10月15日現在)

(単位: m当たり千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~10)	0	(0~0)	0	10 (9~10)	0	9 (8~10)	0
		10~13		並	スギ	13 (10~15)	0	8 (8~8)	0	11 (10~13)	△1	12 (8~15)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	14 (13~15)	0	12 (12~12)	0	11 (9~14)	△2	13 (9~15)	0
				並	ヒノキ	14 (14~14)	0	(0~0)	0	17 (16~18)	△1	16 (14~18)	△1
		6.00	並	スギ	17 (16~19)	0	8 (8~8)	0	16 (14~18)	0	15 (8~19)	0	
			並	ヒノキ	27 (27~27)	0	(0~0)	0	23 (19~28)	△1	24 (19~28)	△1	
	20~28	3.65	並	スギ	14 (13~15)	1	12 (12~12)	0	11 (9~14)	0	13 (9~15)	1	
		4.00	並	アカマツ	10 (9~12)	1	(0~0)	0	9 (8~10)	1	10 (8~12)	1	
		1.80	並	アカマツ	7 (5~9)	0	(0~0)	0	7 (5~8)	0	7 (5~9)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)	0	(0~0)	0	31 (26~35)	1	31 (26~35)	1
並				米マツ	33 (33~33)	0	29 (29~29)	0	32 (29~35)	0	31 (29~35)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	27 (26~28)	0	27 (26~28)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	32 (28~36)	0	32 (28~36)	0	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
				並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
パルプ用材	-	-	並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	4 (4~4)	1	4 (4~4)	1	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	4 (4~4)	1	4 (4~4)	1	

九月の原木市場への入荷状況は、前月比二三割増(前年比八割減)の二一、一三三立方メートルとなっている。販売量については、前月比一二割増(前年比九割減)の二一、一八〇立方メートルとなっている。十月の価格については、小保合いの傾向が見られる。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	9 (8~9)	2	8 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	9 (8~10)	1	8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	12 (11~14)	2	11 (10~12)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均価格を示す。
3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

そんなアルプホルンの存在を知った県内の木工職人が、県産のスギやアテの根曲がり材からアルプホルンを作成し、ホルンの愛好家の意見を聞きながら完成させた楽器が発端と

発達した楽器です。そんなイベントの盛り上げで、私が一役買っているのがアルプホルンの演奏です。アルプホルンは、もともとスイスの民族楽器で、急峻な斜面で育ったトウヒ等の針葉樹の根曲がりを利用して作られ、牛飼いだりが遠く離れた仲間との通信手段として



普及活動と趣味

十月からの三ヶ月間の予定で石川県から派遣されています金子です。石川県では平成二七年五月十七日に第六六回全国植樹祭が小松市で開催されることとなり関連イベントの実施のほか、各種の緑化イベント等を応援イベントとして登録してもらい全国植樹祭開催の周知と機運を盛り上げていくところです。

相双農林事務所 金子 亮
なり活動をしています。私自身もオーケストラでホルンを吹いていたのですが、この活動を知り演奏する場を求めているということで、イベントを紹介するともに演奏者として参加するようになりました。

趣味と仕事をつなげてくれたアルプホルン、皆さんも挑戦してみたいかがでしょうか？



アルプホルンの演奏



書き初め

昨日の今日というのに新しい年の始まりである。新年は、見えるもの全てが「初」となる。初日の出、初苗（明けの空が黄色に染まること）、元朝初めて差す光は、初明り。元日の空は初空となる。身近に飛んでいる雀や鴉も年の始めはおめでたく初雀、初鴉とよぶ。年の始めは、全てが輝いて見えるのである。年神様をお迎えし改まった年には、清々しく、希望を感じたいという日本人の「けじめ」のあり様を心から感じるのである。

そして、一月二日は若水（元旦に汲む水）で墨をすり、字の上達を願って「書き初め」をする。篠田桃紅氏は、大きな純白の雪におおわれた富士に向かって、富士山に一番似合う文字「炎」を書いてみるそうだ。が美しくできたためしがない、と「墨いろ」のエッセイに書かれている。紙のない書き初めをされるそうだ。

篠田桃紅氏は、五歳から書き始め、墨いろの中に無限の色を見得る目と心を感じたといわれる今年一〇一歳を迎える現役の墨家。「成熟なんて退屈よ！」といわれるその心意気に圧倒されるが、その生き方は、実にシンプルで豪快で熱い。一月二日はとうに過ぎたが、自分だけの書き初めをしてはいかがだろうか。山に向かつてか、庭に向かつてか、それとも自分に向かつてか…。大きくひと文字を書いてみる。紙のない書き初めだから「バランスが悪い字ね」などと誰かに批判されることもない。

新年を迎えた自分だけの「けじめ」がつくかも知れない。

（都）

表紙の写真



「馬搬」

第11回ふくしま森林・林業写真コンクールで最優秀賞を受賞した坂野井 浩さんの作品。

編集

福島県内四森林管理署

福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林組合連合会

福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合

ふくしま緑の森づくり公社

森林総合研究所福島水源林整備事務所

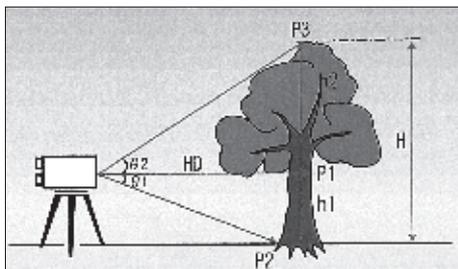
福島県森林・林業・緑化協会

（福島市中町五番一八号県林業会館内）

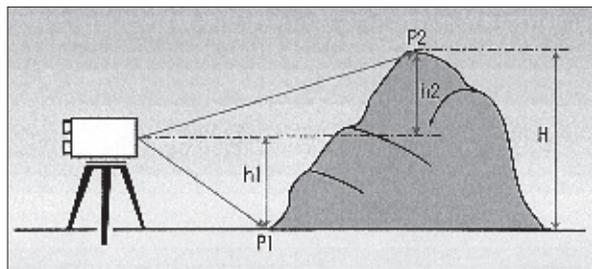
発行人 相馬 陽光社印刷株式会社
（定価 一〇八円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

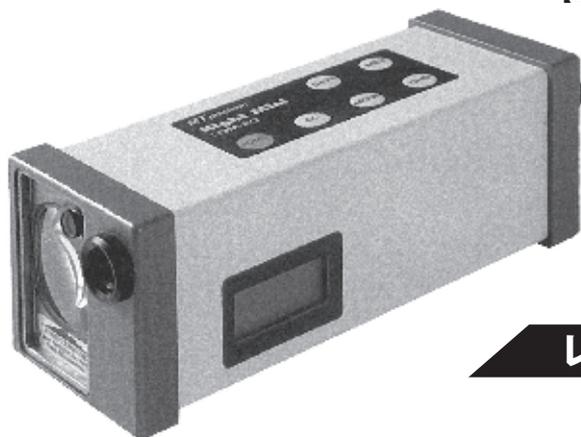


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定寸法	高さ・水平距離・斜距離
重量	W64・H64・D180
付属品	650g
	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

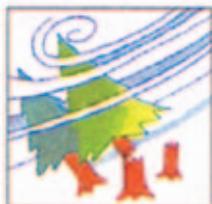
備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



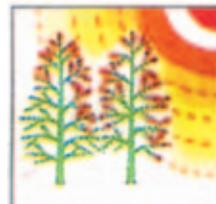
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課 Tel 024-521-7441

平成27年4月から名称が「森林保険」に変わります

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追及したプロセッサ

- 高耐久性を追及したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る

ヤシマレント

蜂さされ防止

ハチノックL (巣退治)
ハチノックS (携帯用)

**大切な日本の松を守る
住化グリーン®の林業薬剤**

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
バークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)



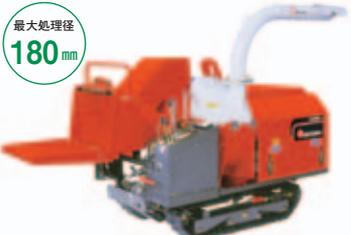
住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。 機器はゼノアから

チッパシュレッダ

プロソー



竹もOK!
SR3000-2
出力 **22.3kW** (質量1,330kg)
水冷ディーゼル
X379301020
¥3,375,000(税抜)



GZ3900EZ
排気量 **39.1cm³** (質量4.4kg)
RSP 21BPX **967159403** | **¥108,000**(税抜)
95VPX **967159303**
HS 25AP **967159104**
91VXL **967159204**
HM 21BPX **967159404**
95VPX **967159305**



GZ4300EZ
排気量 **43.1cm³** (質量4.4kg)
45cm(18")
RSP 21BPX **967160502** | **¥133,700**(税抜)
95VPX **967159902**
HM 21BPX **967160504**
95VPX **967159904**

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店
(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1